

JC-SAT2010報告

電子情報通信学会 衛星通信研究専門委員会
副委員長 加藤 寧
東北大学教授



▲ JC-SAT 2010会場の外観
(慶州市教育文化会館)

JC-SAT2010が2010年10月28、29日に韓国慶州市で開催された。会合は約60名の参加、34件の講演と関連の質疑応答が活発に行われ、盛況であった。今回は特に韓国の多目的衛星COMSが2010年6月に打上げられたところであり、搭載用トランスポンダ、アンテナ等、関連の論文発表が複数発表されているのが特徴的であった。また初めて優秀論文表彰が行われ、選出された論文日韓それぞれ1件に対して表彰状および記念品が贈られた。



▲新羅時代の金冠
(慶州博物館にて)

このJapan-Korea Joint Conference on Satellite Communication (JC-SAT) は、日本と韓国の衛星通信研究者間の情報交換、相互理解を深めることを目的に、電子情報通信学会通信ソサイエティ衛星通信研究専門委員会 (SAT研)と、韓国のKorean Society of Space Technology (KOSST)が共催する国際会議である。本会議は2000年から毎年1回開催されている。第11回目となる今年の会議JC-SAT2010は2010年10月28日および29日の2日間、韓国・慶州市教育文化会館(경주교육문화회관 Gyeongje TEMS Hotel)で開催された。慶州市は韓国の南東に位置し、新羅時代の首都として有名、名刹や古墳等の遺跡を有する古都であり、昨年、奈良会合、古都にちなんでの開催となった。会議では基調講演2件、特別講演1件、そして一般技術講演31件の発表が行われ、参加人員は各日共およそ60名であった。



図2 加藤寧副委員長の開会挨拶

本会議は韓国側代表であるKOSSTのJae Mounng Kim教授(図1)と、日本側代表である筆者(図2)によるオープニングスピーチで始まった。後者では、次回会合、JC-SAT2011開催候補地である仙台が紹介された。続いて2つの基調講演が行われた。1件目の基調講演は、

“Satellite Technology Development Status and Plan in KOREA”というタイトルで、ETRIのHo-Jin Lee博士(ご都合により欠席、代読)により行われた。この講演では、韓国における衛星通信の状況および最新の衛星



図1 Jae Mounng Kim
委員長の開会挨拶



図3 基調講演(ETRI Do Seob Ahn博士)



図4 基調講演(首都大学東京 飯田尚志教授)

であるCOMSおよび同衛星を用いた利用について紹介された。2件目の基調講演は“Broadband Satellite Communications: Past and Future”というタイトルで、飯田尚志教授(首都大学東京)により行われ、日本の衛星通信の状況、特に広帯域通信衛星について説明された。図3および図4はHo-Jin Lee博士と飯田尚志教授の基調講演の様子である。

技術講演は9つのセッションで構成され、全部で31件の論文発表が行われた。セッションタイトルは

- Satellite Programs: Current Status and Future Plans
- Satellite Communication systems and applications
- Satellite Transponder and Communication Equipment #1, 2
- Satellite Communications Network and Equipment #1, 2
- Standardization and Frequency Assignment Technology #1, 2
- Satellite Operation

である。二日間にわたるセッションでの、それぞれの講演について積極的な議論が行われ、盛況な会議となった。特に前述のとおりCOMS衛星搭載用Ka帯通信ペイロード、L帯アンテナの設計や地上衛星管制システム等、韓国COMS衛星に関する論文が複数発表されていたのが特徴的である。

第1日目にはレセプションが地元AP Systems社の支援も得て開催された。今回の会合では、初めての試みとして優秀論文賞が設けられ、日韓各技術委員会により選出された講演2件に対して、このレセプションの際に表彰式が行われ、受賞者に表彰状と記念品が授与された。今回晴れの第1回に選出されたのはNTT阿部順一氏他による「Frequency Utilization Enhancement using Spectrum Editing Type Bandwidth Decomposition Applicable to Existing Satellite Modem」、およびETRI Seong Pal Lee氏他による「Ka band Communication Payload System Technology of COMS」の2件である。図5お



▲ 聖徳大王神鐘
(慶州博物館にて)



図5 JC-SAT 2010記念賞授賞式
 (Jae Moungh Kim委員長から阿部順一氏へ)



図6 JC-SAT 2010記念賞授賞式
 (加藤寧副委員長からSeong Pal Lee氏へ)

よび図6に受賞時の写真を示す。また図7に参加者全体の集合写真を示す。

第2日目の技術講演後に閉会会合が行われ、日韓それぞれから挨拶が行われた。日本からは門脇SAT研副委員長(NICT)から会合成功のお祝いと、再度次回会合の紹介、参加勧誘が述べられ、韓国Jong Won Eun氏からは今回会合の成功裏の開催へのお礼が述べられ、来年の仙台での再開を祈念しつつの閉会となった。今回は韓国勢が大健闘、次回は日本からも一層の参加を得て、より盛会、実りのある会合を目指したい。なお次回会合は2011年10月20、21日に仙台にて開催、詳細は決まり次第信学SAT研ホームページ等を通じてご案内の予定である。■



図7 JC-SAT 2010 参加者集合写真